

[解答]

- ア 誤 U 字谷は氷河の下方及び側方侵食によりできた地形のこと。河川の浸食作用によってできるのは V 字谷である
- イ 正 扇状地は、川が山地の急な斜面から平地に出てきたところにできる地形である。山地では侵食作用が卓越するが、平地部では堆積作用が卓越する。このような場所ではふるいわけが十分に行われていないため、大小の砂礫が雑然と堆積しており、そのため水はけが良く、しみこんだ水が古い平地部の地層に出たところで地下水となることが多い。
- ウ 誤 河岸段丘は、堆積→隆起→侵食→堆積の順に繰り返し変化が起こることでできた段々状の地形のことである。堆積を受けていた地形が隆起を受けて高くなると、侵食作用を受けることになる。削られていくとやがてその部分は低くなり、再び堆積作用を受けることになるが、ここで地形が隆起すると、再び侵食が始まる。このような地形では、上側の段丘の方が古い時代に隆起を受けた古い地層となる（低い段丘は、後に堆積してできた部分となる）。
- エ 正 蛇行河川の場合、蛇行部の内側では流速が小さいため、堆積が起こる。
- 以上から、正解は肢 4 となる。
-

[ポイント]

基本的には、教養地理のレベルの問題ではないかと思います。あ、いや、正直に言えば、エがちょっと悩んだのですが、ア、イ、ウが基本的だったので、それで正解が絞れました。特に易しいアがわかればエの正誤は判断する必要がありません。